



現代人形研通信

7号 2024年12月発行

メールマガジンをお送りしているアドレスは送信専用です。事務局へのご連絡は member.gendainingyo@gmail.com へお送りください。

本年は大変お世話になりました。
新しい年が、皆様にとって健やかで
幸多き年となりますことをお祈りします。
現代人形文化研究会一同

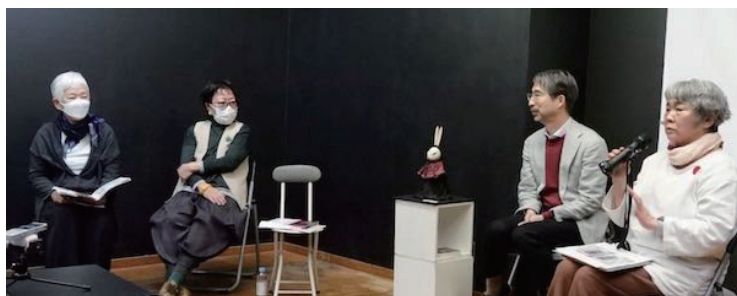
contents

- ・現代人形研からのお知らせと活動報告
 - ・インフォメーション
 - ・展覧会レポート
 - 「緑の地平線」
 - 「ドールアート展 in うつくしま」
 - 「CoNiCS 展」
 - ・特別レポート
 - 「球体関節人形展や天野可淡のこと」
- ・「徒然コラム」 長尾千斗

特別レポート

トークイベント 「球体関節人形展や天野可淡のこと」

東京・六本木のストライプハウスで開催された「緑の地平線」で
トークイベントで話された内容のダイジェスト



現代人形研からのお知らせ

会員による作品展【CoNiCS 展】開催しました。

横浜人形の家が多目的室で11月27日から12月1日に開催。会員25人と海外招待作家の作品あわせて30点を展示しました。出品作品は作品解説とともに、すべて当会公式サイトでご覧になれます。

<https://www.gendainingyo.com/> 現代人形研 conics 展

初日には懇親会を開催、14名の参加がありました。

会場ではフェアヘルストさんが語る展示の感想や、自作の解説をする動画を撮影しました。1月には当会のYouTubeチャンネルで公開予定です。

本展は会員のボランティアの方々と横浜人形の家スタッフの皆様のご協力が無事に開催することができました。心から御礼申し上げます。

ドールアニマルウィンターフェスティバルに参加

12月1日にドールワールド NAW 実行委員会主催の「ドールアニマルウィンターフェスティバル」(東京都立産業貿易センター 浜松町館)に出展し、入会案内などを行いました。

次回は2025年6月14日(土)「ドールアニマルワールドフェスティバル2025」(同会場)に出展予定です。

現代人形文化研究会のYouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UC3ydKLEkOWPO-gze5RCpbGw>

当会の展示や動画資料をこのチャンネルで蓄積します。

当会主催 全国人形公募展「現代人形研展」応募要項

会場 東京都美術館 第4公募展室

時期 2025年12月12日～20日(搬入・撤収含む日程であり、会期はこの範囲で設定します。)

詳細は次号で発表予定です。

年会誌 原稿募集

当会は年に1回、年会誌を発行する予定です。これにともない、以下の原稿を募集します。

- ・人形に関する考察、論文など。
- ・アーカイブに推す作品や展覧会のレポート

※展覧会・作品レポートは随時募集しています。基本的に当年発表の新作、展覧会は個展が対象です。

自薦他薦可。他薦の場合は対象が当会会員でなくても構いません。年会誌はその年の優れた作品や表現をアーカイブとしていくことを目的としています。

関心のある方は、member.gendainingyo@gmail.com の羽関までご連絡ください。内容を編集委員会で検討させていただき、お返事をいたします。

インフォメーション

【展覧会】

第12回クラフトアート人形“マッチング”コンクール

入選作品と招待作家作品の展示

東京展 会期 2025年2月2日(日)~8日(土)

11:00~19:00(初日15:00開場 最終日15:00閉場) 入場無料

会場 東京交通会館 地下1階ゴールドサロン

東京都千代田区有楽町2丁目10-1

大阪展 会期 2025年3月12日(水)~17日(月)

10:00~20:00(最終日17:00閉場) 入場無料

会場 阪急うめだ本店9階アートステージ

詳細 URL <https://salon.craft-art-doll.com/event/4484/>

井桁裕子個展

2019年から制作を開始し2024年に完成した篠原勝之氏の肖像作品「ウラノス・ウラニウム」を中心に、陶の作品、小品を展示販売。

会期 2025年2月13日(木)~3月2日(日)

11:00-18:30 会期中無休

会場 ストライプハウスギャラリー Dフロア(2階)

東京都港区六本木5-10-33

<https://striped-house.com/>

ギャラリートーク

2月15日(土)15:00~ ゲスト: 深沢潮(作家)、究極Q太郎(詩人)、丸川哲史(明治大学教授)、廬佳世(シンガーソングライター) ※究極Q太郎詩集『散歩依存症』、深沢潮エッセイ集「はざまのわたし」出版記念も兼ねて、創作活動とその源泉についてのトーク。



【出版】

榊山裕子著 『愛玩拒否の人形 土井典とその時代』

「特装本」「オンデマンド版」発行

マネキン会社に勤務していた土井典は暗黒舞踏の土方翼の代表作「肉体の叛乱」の模造男根を制作し、土方に背中を押され人形作品を発表するようになった。

1974年の初個展「エロティックな函」では澁澤龍彦が推薦文を寄せ、種村季弘、土方翼、寺山修司、日向あき子らに注目され、人形界で特異な位置に身を置いた土井典。

土井は2016年に他界したが、生前の著作は2冊の『葡萄色の乳房』『偽少女』の作品集しか残っていない。

本書ではその生涯を追いながら、現代における真価を芸術・ジェンダー批評の榊山裕子が再検証する。

A5判 460ページ 口絵 16ページカラー

榊山裕子著 編集 羽関チエコ 発行 DFJ プレス

※特装本はデザイナーが選りすぐった用紙と仕様で、表紙には特色インクを使用。オンデマンド版では出せないクオリティがあり、表紙見返しにデザインが入ります。限定数の印刷となります。

(オンデマンド版は紙質が均一で表紙カバーはなく、見返しなどの仕様も異なります。)

・特装本は限定部数を印刷。在庫がなくなり次第終了。ご注文はDFJ プレスまで。

DFJ プレス お申込フォーム https://dfj-press.nonc.jp/doinori_reservation/

・オンデマンド版はAmazon、楽天ブックスなどのネット書店でご注文ができます。本のタイトルまたは著者名で検索してください。



展覧会レポート

緑の地平線

11月5日～11月13日 ストライプハウスビル M、Bフロア

岡田好永さんが企画するグループ展の2回目。平面から立体まで11人と一組による作品展です。岡田好永さんをはじめ、浜いさをさん、石田百合さん、山口景子さん、松沢香代さんと、人形作家と呼ばれることもありながら、その枠から自由に表現を拡張している方々が参加。そこに平面や彫刻作品が並んでも作品たちが響き合うかのように、空間には伸びやかな、ひとつの流れがあるようでした。生命のイメージにつながる有機的な素材や色合い、造形に共通する印象があったからかもしれません。見事な展示構成でした。

浜いさをさん、宮本忠夫さんは2回目の展示を待つ前に故人となりました。お悔やみを申し上げます。

出品作家

浜いさを（故人）、宮本忠夫（故人）、石田百合、加藤啓、加藤慶子、瀬辺佳子、竹内由美 +M2、穂苅吾朗、松沢香代、宮本寿恵子、山口景子、岡田好永



山口景子



瀬辺佳子



岡田好永



浜いさを



加藤啓



宮本寿恵子



松沢香代

第10回 ドールアート展 in うつくしま 同時開催 第9回全国創作人形コンクール

11月16日～21日 MAX ふくしま 4階 AOZ(アオゾ)



オープニング

特別大賞 文部科学大臣賞 あを「麝香宮」

ドールアート展 in うつくしまはコロナ禍をきっかけに中断していましたが、大竹京さんと教室生徒、地元の後援会の人々の尽力で前回から7年ぶりの開催が実現しました。大竹京さんは福島から人形文化の発信を呼びかけており、コンクールには100点を超える応募があったそうです。

展示スペースでは三輪輝子さん、矢部藤子さん、粧順さんをはじめとする招待作家の展示部門、教室生徒による作品展示がありました。海外招待作家としてアメリカからジョー＝エレン・トリリング、オランダからマーレン・フェアヘルストが来日。会場で作品解説やワークショップ、デモンストレーションを行いました。

同展は次回は2026年4月に開催予定だそうです。

全国創作人形コンクール受賞者

特別大賞 文部科学大臣賞 あを

大賞 福島県知事賞 花森あん

準大賞 福島市長賞 加藤文目

受賞者名と作品画像はこちらからご覧になれます。

<https://l-pupe.net/senkou/>



ジョー＝エレン・トリリング



マーレン・フェアヘルスト



大竹京

CoNiCS 展（コニックス展）現代人形研究会の人形展

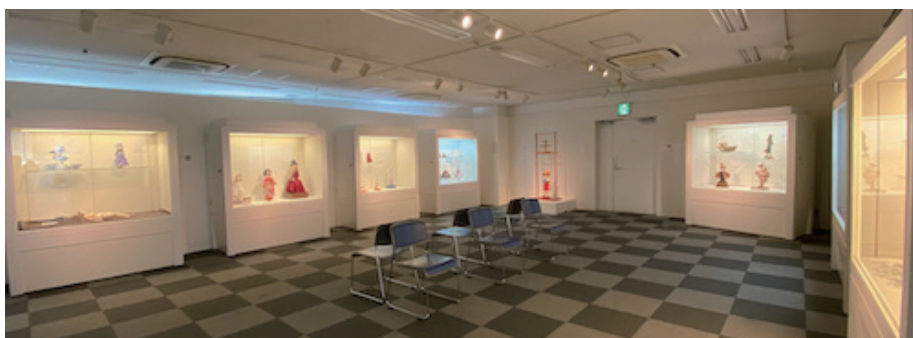
11月27日～12月1日 横浜人形の家多目的室

招待作家以外は一人1点の出品。横浜人形の家のご厚意で照明付箱型什器を使わせていただくことができ、どの作品もやわらかい照明を一点ずつあてて、34点の作品の素材や技術、表現の違いを楽しめる展示となりました。偶然ですが出品者の方の技法や素材がバラバラであったため、来場者の方々には、同じ人形でも表現は自由で幅が広いものだと伝えることができたようです。アンケートにもそのような感想を寄せてくださる方が少なくありませんでした。

一点だけ、ケースに入らない大きさの杉田明十志さんは木彫のマリオネットのピノッキオを出展。在廊されているあいだは操作の実演をして、校外学習の小学生や一般来場者の目を楽しませてくれました。

招待作家のマーレン・フェアヘルストさんも初日の会場を見学し、それぞれが取り組む表現のバラエティや技術力の高さに感心していました。初日の夜は横浜中華街で懇親会を開催。宮城や福島、長野や茨城など遠方から参加される方もあり、フェアヘルストさんを囲んで楽しい交流のひとつを過ごしました。

動画 <https://youtu.be/FHnhblnYzeg?si=7t8ec6EjJMTmrJQa>



多目的室での展示



入口のウィンドウ 左：くるはらきみさん 右：有田依句子さんの作品



マーレン・フェアヘルストさんの動画インタビューを行いました。自作の制作技法（ビスクの直接造形）と、会場の作品の講評です。当会の YouTube チャンネルで公開予定です。



懇親会に参加される方で集合写真

特別レポート

トークイベント 「球体関節人形展や天野可淡のこと」



左から 岡田好永、塚原操、橋田真、羽関チエコ（敬称略）

11月9日、東京・六本木のストライプハウスでの「緑の地平線」の会期中イベントとしてトークイベントが行われました。そちらで話された内容の一部をご紹介します。

2004年に東京都現代美術館で開催された「球体関節人形展 DOLLS OF INNOCENCE」の主催に尽力したスタジオジブリの橋田真氏や、企画担当となった羽関チエコが登壇。企画から開催にいたる話や、同展でも展示された天野可淡の最後の個展会場となったのがストライプハウス美術館（当時名称）であることから、塚原操館長や当時をよく知る岡田好永氏も交えて当時の話を伺いました。会場には、天野可淡が塚原館長に贈った兔の人形も飾られていました。

登壇者 橋田真（スタジオジブリ） 塚原操（ストライプハウスギャラリー） 岡田好永（「緑の地平線」企画） 羽関チエコ（当会理事長）

対談中に上映したビデオ

- ・球体関節人形展 会場（編集 菊地拓史）
- ・球体関節人形展 テレビCM
- ・天野可淡が登場したインタビュー番組

【きっかけ】

押井守監督は新作となる「イノセンス」のテーマを「人形」としました。監督はテーマへの徹底的なリサーチを行うことで知られています。『DOLL FORUM JAPAN』を見た監督から羽関（当時 小川）にアドバイザーのオファーがありました。これを受け、当時開催されていた四谷シモン展を皮切りに、NYでのハンス・ベルメール展、ドイツでベルメールが影響を受けたデューラー派の人形、イタリアのスコペラの蠟人形の見学などに同行。同作のプロデュースにスタジオジブリが関わったことから、宣伝のために東京都現代美術館で「球体関節人形展 DOLLS OF INNOCENCE」を開催することになりました。

橋田：（会場動画を見てから）今、これを見て、いまこれをやったら若者に人気が出るんじゃないかなと思います。

でもあのときだからできたというのもあります。翌年の2004年2月14日に現代美術館で押井守さんの展示をやるように鈴木から言われた。伊豆に押井さんがいるというので、鈴木（敏夫プロデューサー）にそこに行けと言われて行ったら、羽関さんがいたんです。暑かったから、確か夏。そう、ミッドサマーです！（中略）押井守展は種田陽平さんに会場美術をやってもらうことが前提条件だったんですが、その他の展示資料を集めたり他の部分を作るにしても予算と時間がない。それで人形展だけでいこう、と決まったのが9月でした。

【準備期間は半年間】

開催が決まってからは、担当としてスタジオジブリから橋田真氏、日本テレビからは深井絵里子氏、そして羽関の3人のチームを核として、猛スピードで展示の準備が始まりました。人選も、作家の制作期間もこの半年間におけることでした。会期まで半年の時間しかありません。監修は押井守監督ですが、相談が必要なとき以外は企画から人選まですべて羽関に委任してくれました。東京都現代美術館も担当の学芸員はついたが事務連絡のみで、さまざまな準備の作業は大変でしたが、企画内容への干渉はほとんどありませんでした。会場美術を菊地拓史氏に依頼、氏はすべての作家に丁寧にヒアリングを行い、行けるところはアトリエをすべて訪問し、会場構成を練りました。

【天野可淡の展示】

球体関節人形展では天野可淡は外せない、国立の実家の両親の協力を得て押井守監督はじめ橋田氏も作品を下見しました。しかし著作権の問題があり娘二人の承諾がないと展示ができないうえに、手を尽くしても連絡先が分からないでいました。すると展示を拒否する手紙が娘から届き、その手紙を手がかりに交渉を開始。交渉は展示前日まで続けたけれど、実家にある作品展示の許可は得られず、可淡作品は吉田良氏やコレクターの作品を借りて展示をすることになりました。

羽関：橋田さんは娘さんのところに何度も交渉に通っていて、初日の前日もすごく忙しいのに「橋田さんがいない」と騒いでいたら、娘さんの千葉のバイト先に行ったという。それでやっぱり駄目だったと帰ってきたときはもう夜で、作家の方は皆帰った後で、スタッフは可淡さんの展示の前に集まって脱力状態で壁や床にもたれこんで、みんなが球体関節人形みたいになっていました（笑）。

橋田：その後、（可淡さんの）ご両親と娘さん二人が和解して、可淡さんの人形を展示したいという相談を受けるようになり、近代美術館の工芸館に話をして作品を収蔵してもらうことができました。



最終日撤収前の記念写真

トークイベントではこのあと、塚原館長より天野可淡との出会いや作品展の話にはじまり、暗黒舞踏の土方巽、寺山修司の話題などとなりました。

このイベントの記録動画は編集してから当会のYouTubeで公開させていただく予定です。

また、このイベントにおいて当会の活動資金への寄付を募らせていただきました。参加者の皆様から16700円のご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。

徒然コラム

当会会員のフリーコラムです。

土井典さんの評伝について

長尾千斗



私も取材などに同行させていただいていた、土井典さんの評伝『愛玩拒否の人形 土井典とその時代』が届きました。ピンク色の中紙や銀色と蛍光の特色インクを使った表紙カバー、特装の素敵な仕上がりに感無量で、今は色々な思いが溢れてうまく言葉にできずにいます。

5年前、私が横浜人形の家で勤務を始めてまだ1年も経たない頃、土井さんにアポイントをとりたいと思い調べてゆく中で、土井さんの評価について同じように思っていた羽関チエコさんのブログを見つけ、連絡をさせていただきました。

当時のメールを見返したところ、このような文面を送っていました。

以前、那須のニキドサンファル美術館でも土井さんの作品を拝見しました。

ニキも美術館が閉館してから、2015年に新国立美術館で大型の展示がありました。

その際の宣伝として、ふくよかだけれどファッショニスタでアイコン的なタレントの渡辺直美を起用するなどもあり、時代の多様な「美」が大衆に受け入れられ、時代がようやく「ニキ」「土井典」に追いついてきたという感覚がありました。

現在の「ジェンダー」や「多様性」をめぐる社会状況について、人形をメディアと捉え、何かアプローチできることがあるという風に私も思います。造形作品として素晴らしいのはもちろんですが、そういった意味でも「土井典」という女性人形作家をこの時代にこそ取り上げることは重要だと考えています。

しかしまさか、土井さんがその時から4年も前に亡くなっていたとは知らず。それは私が連絡してから、羽関さんや近い方が色々と調べて下さった中で分かったことでした。それからは可能なかぎり、取材にも同

行させていただきました。

私は土井さんの作品が好きだったので、どうしてもっとピックアップされないのかと不思議に思っていました。女性作家の再評価が積極的にされる時流もある中で、人形作家だから？女性だから？グロテスクで可愛くないから？だったら自分で企画して展示しようと。人形やアートの業界について当時全く知らない私から見ても土井さんへの扱いに違和感がありました。

そして私にも他の人々にも、著名な作家たちにも大きな影響を与えたはずの人が誰にも知られずに亡くなっていた事実、言ひようもない悔しさと、今なお続く根深い男性社会的な世界線を感じ絶望的な気持ちにもなりました。

しかしこの評伝が手元に届き、『絶望しないために人はつくり続けるんだ』と思えて。受け取った灯火を消さずに私は最期まで一生懸命生きてゆきたい。そのために何かしらこれからも企画したり発信したりするつもりです。

この本をじっくり拝読し自分なりに咀嚼したいと思います。

横浜人形の家での「ひとはなぜ“ひとがた”をつくるのか」展においても、榊山裕子さん羽関チエコさんのお二人からはいつもお優しい言葉をかけていただき、展示や図録等でも多大なご協力をいただきました励まされました。

長い時間をかけて評伝にして下さり本当にありがとうございました。

長尾千斗（ながおちと） 横浜人形の家 「ひとはなぜ“ひとがた”をつくるのか」展（2024年4月6日～6月30日）を企画



2020年11月17日に有限会社 ANT にあった土井作品を調査することから、『愛玩拒否の人形 土井典とその時代』の制作が始まった。
筆者もこの調査に立ち会った。